一人息子（1936）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 87分
初公開日 1936/09/15

【解説】
小津安二郎が自らの原作（ゼームス・槇名義）を監督した、最初のトーキー作品。脚本は池田忠雄と荒田正男。後の作品に見られるコミカルさは控えめで、終始重苦しい雰囲気に包まれているのは時代のせいか。
早くに夫を亡くしたつねは、田畑を売り身を削って一人息子の良助を育てた。優秀な成績を誇る息子のため、つねは苦しい生活の中から進学のための資金を捻出。しかし13年後、東京で出世しているはずの良助は、夜学の教師となっており、妻子とともに貧しい生活を送っていた。しかも良助は教師をしていることも所帯を持っていることも、母親に知らせていなかった。上京したつねは厳しい現実を目の当たりにし、絶望感に包まれてしまう。

【クレジット】

監督	小津安二郎		
原作	ゼームス・槇		（小津安二郎）
脚本	池田忠雄		
	荒田正男		
撮影	杉本正次郎		
美術監督	浜田辰雄		
衣裳	斎藤耐三		
音響効果	斎藤六三郎		
音楽	伊藤宣二		
演奏	松竹大船楽団		
出演	飯田蝶子		野々宮つね
	日守新一		野々宮良助
	葉山正雄		その少年時代
	坪内美子		良助の妻杉子
	吉川満子		おたか
	笠智衆		大久保先生
	浪花友子		その妻
	爆弾小僧	Bakudan Kozo	その子
	突貫小僧		富坊
	高松栄子		女工
	加藤清一		近所の子
	小島和子		君子
	青野清		松村老人

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.